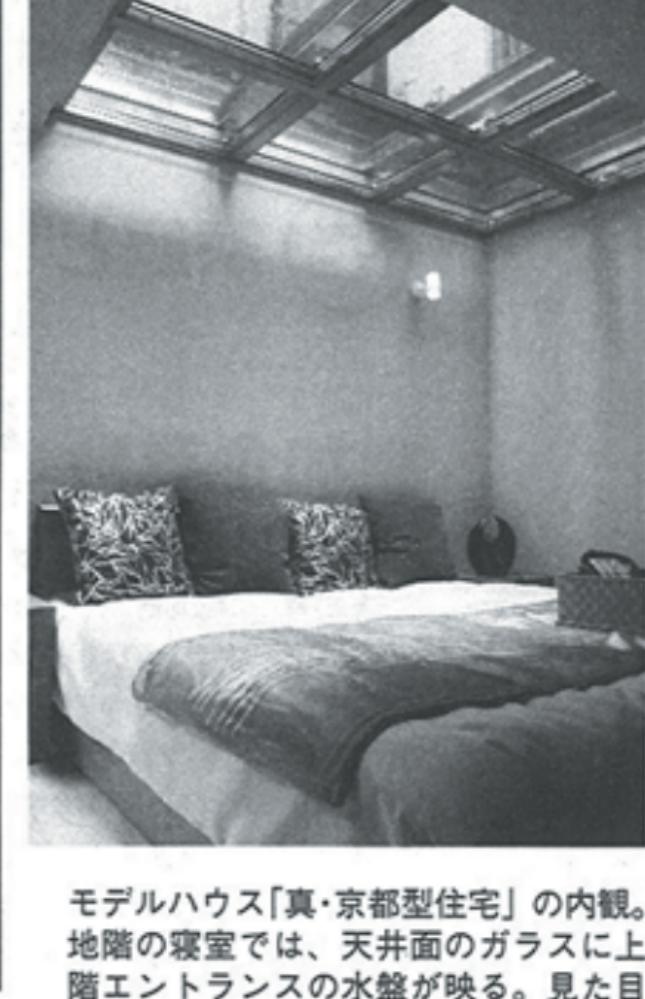


話題

「CO₂ゼロ口住宅」に挑戦

京都の口一ココスト住宅メーク



モデルハウス「真・京都型住宅」の内観。地階の寝室では、天井面のガラスに上階エントランスの水盤が映る。見た目にも涼やか。

ローコストの住宅メーカーが、CO₂ゼロ住宅の研究を実験に乗り出した。挑戦者は、京都市北区に本社を置くゼロ・コーキング・ショット。同社では2008年度の国土交通省・地域住宅モデル普及推進事業において「真・京都型住宅」のモデルハウスを全クリアし、住宅履歴書も付く高性能な注文・分譲住宅。クレームを一般消費者に公開することで品質確保にも注力してきたことなどと相まって好評を得、住宅不況の中であつても2010年度3月期の決算で増収増益、注文住宅では契

モデル（※）を目指したCO₂ゼロ住宅の研究をスタートさせた。同社のウリは坪28.8万円、太陽光発電付の32.2万円のローコストでありつつ、長期優良住宅仕様を採用するなどにとどまるが、「いずれは自然を汚さない排水・浄水システムや燃料電池・蓄電池を使ったスマートエネルギーハウスなどにも取り組みたい」（広報室）と意欲的だ。

同モデルは顧客心理にもプラスに働いている模様で、営業部の広原主任によると

約棟数152棟と前期比約10%の伸びをたたき出した。

「真・京都型住宅」は、「過ごせる」など極限の環境

感を持つ、ファンになってください」（広報室）と、目標はどこまでも高度などとアップさせる目的で建設し

「過ごせる」など極限の環境感を持つ、ファンになつてください」（広報室）と、目標はどこまでも高度などとアップさせる目的で建設し

（※）2021年度EUモデル EUでは2021年度以降に新築する住宅やオフィスビルについて、原則としてCO₂を実質的に排出しない「エコ建築物」となるよう義務付ける規制

現状では、太陽光発電システムの設置や京都市域の産材「みやこ杣木」の活用、屋上緑化、宇宙服にも耐えられ、CO₂を排出しない住宅づくりを目指したい」（広報室）と、目標はどこまでも高度などとアップさせる目的で建設し

（※）2021年度EUモデル EUでは2021年度以降に新築する住宅やオフィスビルについて、原則としてCO₂を実質的に排出しない「エコ建築物」となるよう義務付ける規制

導入に加盟国が合意しておらず、2年以内に国内法が整備される見通し。